

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0475300851
法人名	センコン・リージョナル・サービス株式会社
事業所名	しあわせの郷遠見塚3丁目グループホーム
所在地 (電話番号)	仙台市若林区遠見塚3丁目14-12 (電話) 022-286-0734
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 3 月 21 日

## 【情報提供票より】(20年3月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.2 人

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	18,240~24,320 円
敷金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1		要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	
年齢	平均 85.25 歳	最低 79 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	杜の往診クリニック・阿部歯科クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昨年4月、これまでの理念を職員全員で検討し、地域との連携強化をうたって理念を作り上げた。「地域に根ざした笑顔の郷」である。管理者は「介護の基本は笑顔」として職員と共有し実践している。また、併設事業所と合同主催し、地域に開放している夏祭りは評判であり、その際にバザーも実施し売上金を地元老人会に還元している。老人会では入居者と一緒にホームに花を植えたり飾ったり、ホームを花一杯にしている。初詣、どんと祭など、地域資源を活用し、地域文化にもとけ込んで理念を實踐し、また、継続治療を要する入居者が、「ホームで生活したい」という思いを支援するため、手段、方法を探り、勉強会で知識を共有するなど努力も惜しまない。入居者に優しく、地域に根ざした生活を追求している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で改善課題とされた項目はなかったが、管理者、職員は満足することなく、この1年更に良質な介護サービスの向上のために取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を全職員に渡し、項目内容をよく理解して、各々が自己評価に携わっている。また、前回の外部評価結果を報告し、満足せず更に良質な介護サービスの提供を目指し全員で評価の意義を共有もしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議で家族からホームの金銭管理について要望され、マニュアルを作成し、収支報告を毎月送付している。また、ホーム側から地域とのより良い交流へ向けての方策等を相談し、助言してもらい、そのことが小学校運動会での高齢者部門種目への入居者参加につながり、盆踊り大会で祝辞も述べている。10月から運営推進会議は中断しているが、ホームでは4月2日の会議開催に向け取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族面会の都度声掛けし、家族会、運営推進会議でも意見、苦情をホームに伝えてもらい、希望に添って積極的に方法を探り、対応している。ホーム担当者、公的機関、第三者委員を明記し、また、言い出しにくい心情にも配慮し、無記名で意見等を書いてもらい、玄関の「意見箱」に入れるようにもしている。現在家族会の開催は中断しているが、4月の経営移譲後早期の再開を望みたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校の運動会で入居者が種目参加、盆踊りに出席、霞目駐屯地記念式典への出席、薬師堂への初詣、どんと祭など地域資源を活用し、地域文化にもとけこんで交流が盛んである。また、ホーム、通所施設合同の夏祭りは地域に開放し、屋台、踊り、太鼓など大イベントを繰り広げ、バザーの売上金を地元老人会に還元し、老人会では入居者と一緒に花を植えたり、ホームを花一杯に飾ってくれるなど良い関係が維持されている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした笑顔の郷」は地域密着型サービスとしての視点に立ち、これまでの理念を全職員で検討し、平成19年4月に新しく作成した理念であり、地域との連携をうたったグループホーム独自のものである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆で話し合い作りあげた理念であり、共有できているが、ミーティング時に再認識し合い、笑顔で絶やさず、入居者にとってこのホームが楽しく落ちつける居場所となるように日々取り組んでいる。理念を事務所、玄関など常に職員の目に触れる場所に掲げ、「基本は笑顔」として認識しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年初めて入居者が小学校運動会の種目に参加し、交流し合うことの素晴らしさを実感できたと、施設長は熱く話されたが、夏祭りではバザーも実施、その売上金を老人会に還元し、老人会では施設、ホームを花一杯にして返してくれている。地域の温かい眼差しがホームを力強く後押ししている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に渡し意義の理解に努め、それぞれ評価に取り組み、管理者が取りまとめた。前回の外部評価時には改善課題はないとされたが、管理者、職員は満足することなく、この1年、更に良質なサービスの実施に向け取り組んできている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの金銭管理報告の充実を、家族から要望され、マニュアルを作成し、それに沿って沿って取り組んでいる。また、委員から地域との交流について助言をもらい、小学校の運動会で入居者が種目参加したことで、地域住民に大歓迎され、交流が進むなど貴重な体験もしているが、10月から会議を中断している。	○	管理者は会議の中断をよしとしている訳ではない。種々の理由は心情的には理解できるものであり、職員と協働して4月初めには再開するということなので、定期的、継続的な開催に向けて、尚一層の努力をしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者のみならず仙台市にも出向き、個別の支援で求められるホームの対応、手段について相談し、「できない」ではなく支援を続ける為の方法、やり方を探り、困難事例にも努力し実践している。また、管理者は区の在宅ケア連絡会委員として「認知症の人と家族の会」への講師として講演もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時にも家族は面会に来ていて、ホールで入居者と一緒にくつろぐ姿や、職員と話す様子もみられ、自然な交流がうかがえた。月に一度の請求書発送時、ホームでの暮らしぶり、行事でのエピソードや写真、ケア担当職員からの連絡も記入した「家族レター」、金銭収支についても送付し、報告、確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に手作りの「意見箱」を置く等工夫し、苦情、相談の窓口もホーム担当者、公的機関、第三者委員を明記している。外部者への相談の機会を広げているが、家族会の開催は中断しており、交流や意見の反映に更に取り組むまいとしている。	○	ホームとして色々手段を講じ、家族からの要望、意見の聞き取りに努力しているが、出されることは少なく苦慮している。家族会の開催は中断しており、4月に迫っている経営委譲後に向けた取り組みが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力避けたいとしており、実態として少ない。本人都合で不意の離職の場合は入居者に不安や動揺を与えないように配慮し、家族には隔月発行の「しあわせの郷新聞」に掲載し紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の基礎学習や段階に応じた外部研修など、本人の希望も入れながら進めている。外部研修への機会提供もさりながら、入居者の状態の変化によりよく対応するため、今、職員が必要としている情報、知識について施設長、管理者は区、市担当者も含め広範囲に収集し勉強会などで共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症グループホーム連絡協議会に加入している。同社内にある事業所間で行事を一緒に実施し、催事には訪問して見学、鑑賞もしている。個人的に友人間で悩みを話し、ケースについての相談や、他介護施設の友人との意見交換もしており、今後も積極的に外部との交流に努めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みにより職員が数回自宅を訪問して馴染みの関係を作り、家族と一緒にホームの見学や夕食など体験してもらい、入居開始日を決めている。また、管理者、看護師が同行し、生活歴、暮らしの様子、薬、持病など違う視点で把握することは、入居へのスムーズな移行と本人の安心のために大切だとして、そのように対処している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者同士会話し合い笑顔が見られ、職員への信頼と良い関係がうかがえる暖かいホームである。職員の伴奏で気持良く歌っている方、居室で過ごしている方、通院治療している方など様々である。畑仕事、書道、干し柿作りなど、作り方、知恵を教わり、できることを支援しながら支えあって生活している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	このホームでの暮らしが長い入居者が多く、一人ひとりの思い、意向について職員は共有し受けとめてもいる。病気による食事制限のある入居者についても、家族、医師と相談し大好物の菓子、果物を適度に提供するなどして、楽しく張り合いのある暮らしを支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりにケア担当者を充てて支援しており、日常的に家族、本人とコミュニケーションを図り、「スタッフ会議」で介護計画作成担当者等に伝え、一緒に意見を出し合い、話し合っ作成している。家族の面会時にケアプランを渡し、意見、希望を聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりのケアプランについて評価、モニタリングもして検討し、3ヶ月毎に次のケアプランに活かし見直しもしている。入居者の状態の変化や家族等からの希望が寄せられた時は、随時に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が面会に来た時に一緒に自宅に帰り、外泊する入居者もいる。本人の希望で馴染みの美容院、理容店、買い物、外食へ出掛けたり、車椅子使用の入居者への入浴は時に、2階通所施設にある浴室でゆったりと入浴してもらおうなど、柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は家族、入居者の希望通りとし、月に2回往診ドクターによるホームでの受診や、かかりつけ医での受診とそれぞれである。現状看護師による24時間の医療連携ができなくなっているため、訪問看護ステーションとの契約も視野にいれ、適切な医療受診支援に向け、努力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「グループホームの社会的役割」として、家族等にホームの姿勢を説明している。重度化や終末期でのホーム対応事例はないが、家族、医師、職員で話し合い希望する対応について、できるだけ方法を探りながら、やれることは支援する姿勢がみられる。意思確認書も用意されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者にプライバシーの確保で特に気を付けて対応していることを尋ねたら、「自分がされて嫌だと感じることは入居者に対してもやらないこと」と話し、その思いを職員と共有し、常に目上の人として尊厳を保つケアに徹している。玄関にある面会記録も1枚形式であり、プライバシー確保への配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見学时、ホールで入居者と家族のくつろぐ姿も見られ、職員と話したり、他の入居者と声を交しあったりしている。また、職員の伴奏で歌を楽しんだり、居室で過ごしていたり、一人ひとりが自分のペースで生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居室で自由に過ごしている入居者も時間になるとホールに集まって来、盛り付けをしたり、テーブルを拭いたり、できることをしている。職員は3つのテーブルで席に着き、楽しく会話しながら必要な介助にさりげなく取り組んでおり、食後、歩行器に食器を載せて運ぶ入居者にも暖かい眼差しをそそいでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は時間帯も含め浴室に掲示してあるが、入居者のその日の予定、希望に沿って変更、対応している。浴槽は家庭に見られる普通サイズであり、車椅子の入居者は、時に併設の通所施設の浴室で、介助されゆつたりと入浴を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、書道、テレビ、読書、CD、電話掛け、手紙書きなどそれぞれに得意なこと、楽しみごとを職員に支援されて行っており、訪問時は盛り付け、テーブル拭き、食器を下げるなどの様子も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は外出が大好きである。天気の良い日は声がけし、希望にも応じ、飛行場やショッピングタウン、ささかま館、買い物、外食、散歩など時間帯を工夫し、通所施設の大型車で出掛けることもある。今後も積極的に行事を企画し、希望にも合わせて外出の機会を多く提供したいと話している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵は掛けず、様子を見守りながら対応している。入居者が外に出て行った時は一緒に歩き、別の入口から帰るなどして落ち着かせている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の指導で災害訓練を実施し、地震、消防対策訓練実施報告書として記録している。また、夜間を想定したグループホーム独自の火災訓練も実施したが、非常連絡通報装置が適正に作動しないトラブルもあつたなど、予想外の収穫もあり、事後の対応にあつたっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食事、水分摂取量は生活記録表の中で把握している。疾病により食事、水分を制限されている入居者もいるが、家族、医師と相談し本人の思いも受けて、支援している。体重は月に一度測定し、過度の増減がないように気を配り、通所施設の栄養士の協力も得ている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関前にはこの時期でもプランターに花が彩りよく植えられている。廊下に続くホールは広く開け、キッチンがオープン形式となっている。懐かしい茶箆筒、普通に家庭で見られる家具調度も置かれ、花など季節に合わせた飾り付けも程よい。「自分の居場所として落ち着いて生活していただきたい」と話す管理者の思いが伝わる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室内はCD、ラジオカセット、テーブル、家族写真など、馴染みの品が持ち込まれ、手書きした雅号や書が貼られている。奥様の遺影と共に茶、水が備えてあり、自分の居場所として落ち着いて生活していることがうかがえる。		